

陸軍少飛平和祈念の会、会報 No22 号

2020(令和2)年11月

- ◎本会のHPは、<http://sho-hi.sakura.ne.jp/> です。どうぞご覧ください。
- ◎次回の月例会は、令和3年1月16日(土)AM10~12時です。ご予約をお願いします。会場は追って連絡します。
- ◎経費節減のため、会報をメール配信に切り替えています。パソコンのメールアドレスを、heiwakinen@sho-hi.jp までお知らせください。

(1) ビデオ収録の実施状況

11月17日18期の高林萬津樹さんを予定していましたが、体調不良のため延期しました。11月27日に20期の松原昭次さん、12月8日15期乙の鎌田祐二さんのビデオ収録を実施する予定です。他の元少年飛行兵の方のビデオ収録も承諾を得ながら実施する予定です。

また、NHKのファミリーヒストリーの調査及び新潟日報社の報道により、新たに5人の元少年飛行兵の方がご健在でいらっしゃる事が分かりました。可能な限りビデオ収録に努力してまいります。

(2) ビデオ収録の文字起こしと証言集第二集以降の刊行について

2019年度の予算でNPO法人FJK(フォーラム自治研究)に依頼し、10数名の文字起こしが来ています。現在写真や経歴を加えて、証言集の原稿を作成中です。元少年飛行兵の方々に見ていただき、修正作業を行っています。文字起こしに未着手のビデオ収録も10本近く残っていて、9月例会で文字起こしを早く行うこととし、本年度の収入で実施することになっています。また、証言第二集以降の刊行に必要な助成金の獲得にも努力しています。

当面の考え方として、来春までに必要な原稿を作成して証言第二集と第三集を刊行したいと考えています。

(3) 会費及び寄付金のご協力の御礼

会の会計状況ですが、前会報でご報告した9月19日以降も引き続き多くの会費と寄付金の振込及び送金がありました。皆様のご協力によりビデオの文字起こしと証言集の刊行を予定より早く進めることが出来るように

なりました。ご協力本当に感謝いたします。

収入の内訳ですが、9月19日15期乙菊池乙夫さんから会費千円、9月25日17期の崔三然さんから寄付3千円、10月5日新潟市の富樫健吉さんから寄付1千円、10月5日15期乙の鎌田祐二さんから寄付2万円、豊島区のIYさんから寄付1万円、指田会長から会費と寄付で3万円、狭山市の立花壮介さんから会費と寄付で3千円、10月12日新潟市の丸山仁さんから寄付1万円、10月23日小金井市の本橋一夫さんから会費1千円、10月26日11期の西川陟さんから寄付5千円、11月2日中野区の島田幸太郎さんから会費1千円、総額78000円を収入しました。

皆様のご協力に感謝し、本会の責任を果たして参ります。

11月6日現在の会計状況は、現金所有126,379円、切手所有2,538円、郵便為替59,250円、銀行預金37,588円、合計225,755円です。

(4) NHK ファミリーヒストリーの取材協力

NHK 総合テレビの番組「ファミリーヒストリー」のプロデューサーからの依頼で、5月から取材協力をしてきましたが、11月23日に放映されました。芸能人ハリセンボンの近藤春菜さんの家族の歴史で、春菜さんの祖父近藤敏明さんが少飛17期で、その関係者を探していました。本会から17期で、同じ内務班や区隊、終戦時の配属先にいた方々をリストアップして情報提供しました。NHKで調査して、本会会員の佐藤昭さん等の取材が行われビデオ出演していました。少年飛行兵の紹介や終戦時の飛行場で空襲による同期生の戦死の話もあって、良い内容だったと思います。番組の最後に、取材協力として小田急電鉄、秦野市教育委員会と並んで陸軍少飛平和祈念の会がテロップされていました（写真）。



また、NHKの取材の過程で、4人の元少年飛行兵のご健在を確認したと報告を受けました。可能な限りビデオ収録に努力したいと思います。

(5) 17期の崔三然さん、奥山左近さんのご逝去

本会会員であり、17期会のメンバーであった崔三然さん、奥山左近さんが逝去されたとの知らせがありました。お二人とも闘病中でした。本会のビデオ収録に協力していただける約束をしていて、病気の快復を祈っていました。

たが、残念です。崔さんの娘さんから、生前の父からとしてご寄付をいただき、資料も送っていただきました。ご冥福をお祈りいたします。

(6) 新潟日報の新聞記事

本会会員の新潟市の丸山さんから、新潟日報で少年飛行兵などが特集されたと、新聞記事が送られてきました。

11月の例会で回覧したところ、記事に取り上げられていた15期乙の少年飛行兵は、大刀洗からインドネシアなどで、本会の菊池副会長と一緒に行動していた戦友であることが分かりました。早速菊池副会長から手紙を出すとともに、ビデオ収録への協力をお願いしたいと思っています。

(7) 少飛17期の瀬尾敏夫さんのビデオ収録

令和2年7月18日、17期の瀬尾敏夫さんのビデオ収録を、ご自宅近くの千葉縣市川市の信篤公民館で午後1時30分から約3時間実施しました。瀬尾さんは西船橋で毎月開かれている17期会の世話役で、本会に大変協力していただいています。ビデオ収録も他のメンバーを優先してきましたが、今回ご本人の順番となりお話を伺うことが出来ました。以下はビデオ収録の冒頭部分です。全文は証言集に採録します。



●家業は連隊の御用商人

瀬尾敏夫、昭和4年、1919年9月22日千葉県の佐倉市で生まれました。野球の長嶋さんと同じ佐倉市ですが、長嶋さんは旧の臼井町で、私は元々の佐倉でした。その時の家族は、両親と男4人と女4人の8人兄弟でした。私は上から5番目の子供でした。上は兄2人姉2人、下が弟1人妹1人です。妹は子供の時早くに亡くなりました。

家は、佐倉に陸軍の連隊があつて、その御用商人をやっていました。連隊に野菜、青物を納めていました。毎日、毎日、仕事が忙しくて、小さい時から家業を手伝わされました。冷蔵庫がない時代ですから、その日に採れた野菜を洗ってその日のうちに納めるんです。一個連隊ですから、だいたい千人位の部隊でした。

少年飛行兵だった時には、同期の連中が、兄が佐倉の連隊にいるからと

か言って、大勢家に来ていました。吉田金司君も来ていたと思う。17期の一番ひょうきんな上原君、もう亡くなっちゃいましたが、彼も兄貴が連隊の主計とかで、よく我が家に遊びに来ていました。

●飛行機乗りになりたい

陸軍少年飛行兵学校に昭和18年10月に入校しました。入学試験は9月、志願を出したのは4月か5月ではないかと思います。家が御用商人だったので小さい時から軍隊のことを知っていました。どうせ兵隊になるなら飛行兵がいいやと志願しました。

小学校は、佐倉尋常小学校。昭和11年4月に入学し17年3月に卒業しました。佐倉中学校に進学し、翌年中学2年になって志願した訳です。どっちにしても兵隊に行かなくてはしょうがないと思っていました。家の商売が商売ですから。小学校2年生の時に先生に四街道の飛行場に連れていかれたのですが、飛行機の上にお正月のお餅が載せてありました。それを見て、飛行機はいいなあと思って、それが飛行機乗りになりたいと思ったきっかけですかね。

我が家は、長男長女は学校に行きましたが、あとは行くなという家でした。昔から厳しい家で、長男は学校に行きましたが勘当されて祖父の家系に行きました。家業は次兄が継ぎました。私が少年飛行兵を志願した時には次兄は召集されていて家にいませんでした。最初は東京麻布の砲兵部隊だったと思いますが、その後は分かりません。最期の戦死通知はレイテ島でした。あの頃は復員局で調べても分からないのですよ。ハルマヘラ島でまだ生きているという話もありましたが、最終的にはレイテ島で戦死です。

●終戦で家業がなくなった

戦後は、連隊がなくなってしまって、家業も無くなりました。皆はお前の所は連隊の御用だから楽でいいよなと言うのですが知らないのです。終戦になってメインの仕事がなくなっちゃったのです。戦時中は、民間の対空監視隊の本部に家が半分取られたような形になって、昔の店だった所が本部になって青年団の人達が、我が家と同居のようになっていました。青年団の人達の賄いなんかも、お袋が見ていたんじゃないですか。とにかく軍隊にはみんな協力的だったから。お袋は連隊がなくなった後、小さな八百屋をやっていました。長女は、家政女学校に行って、次女は千葉の市役所に勤めていましたが、早くに亡くなってしまいました。親父は私が小学校4年生位の早くに亡くなっていました。腹膜炎でした。あの当時はみんな腹膜炎と言ってましたが、今の癌じゃないですか。

●自分で志願、入学の時にひどい雨

ですから、少年飛行兵学校を志願する時は、母親、兄、姉、誰にも相談しませんでした。お袋には一応相談したでしょうが記憶がありません。次男坊、三男坊などに親は干渉しませんから全然。放りっぱなしです。サラリーマンの家庭はどうか分かりませんが、うちはそうでした。飛行兵学校の情報は自分で調べました。中学校からも飛行兵学校のことを教えてもらいました。

受験は千葉かなんかに行ったんじゃないですか。覚えてないです。受験の内容も覚えてないです。受験を苦にはしていなかったですね。とにかく勉強はやらなかった方ですから。勉強が嫌いという訳ではなかったのです。小学校の何年生の時か、その時までずっと成績が良かったのですが、最頃だと言われて頭に来て、それから一切勉強なんかするもんかとしなかった。とにかく我儘勝手ですから。少年飛行兵に合格したのですからそれなりの水準には行っていたのでしょうか。17期は22人に一人の合格だったと聞きました。

合格通知は受け取ったか覚えてないです。親にも報告したんでしょうね。お祝いなんてされてないです。我が家は、長男長女以外は子供ではなかったですから。中学校で私ともう一人合格者がいました。田舎では校長先生から朝礼で合格を褒められたりしたようですが、私はそのようなことはなかったと思います。

入学の日が、ものすごい雨だったという記憶があります。びしょびしょに濡れて、お茶の水の駅で帰りたくなった記憶があります。その日は、中学校の先生と姉が付き添いで来てくれました。家を出る時は、町内会の人が挨拶し、万歳三唱で、婦人会の人も襷をかけて、送ってもらいました。佐倉の連隊は、昔から兵隊送りという習慣がありました。慣れているのです。少年飛行兵学校への入学ですが、兵隊の出征の送りと一緒でした。学校に行くというよりも、兵隊に行くという感じでした。

中学校の先生と姉が校門まで来てくれました。そこで別れました。その日のことはよく覚えていませんが、大講堂の中で、びしょ濡れのまま、寒いなあってふるえていたのは覚えています。入った時に適性検査があつて、入学許可になってから軍服に着替えしました。適性検査で、操縦が東京、整備が天津、通信が大分に別れました。

◎今年度の会費納入をよろしくお願いします。会費は切手で納めていただいても結構です。

◎以下の送り先をお願いします。

〒151-0071 東京都渋谷区本町6-7-7

陸軍少飛平和祈念の会 鳥海賢三